

# 認知症ケア研修 報告書

## 1. 目的

- ① VR（バーチャルリアリティ）の技術を活用し、認知症の中核症状を疑似体験することで、当事者意識を持ち、介護職として「自分自身がどうあるべきか」を考え、行動していくきっかけになる。
- ② 認知症になっても住み慣れた地域で幸せに暮らすことができる社会をつくる一員となる。

## 2. 対象者

泉大津市内のサービス付き高齢者住宅・有料老人ホーム、特養、通所介護のケアスタッフ、および管理者 30名（1回10名×3回実施）先着順

## 3. 日時 令和2年11月26日（木） 参加者 計19名

1回目	10:00～11:00	4名（施設、病院）
2回目	14:00～15:00	6名（通所、訪問）
臨時	15:00～16:00	2名（役場）
臨時	17:30～18:00	4名（通所）
3回目	18:30～19:30	3名（施設、病院）

## 4. 会場 愛の家グループホーム あびこ 1F

## 5. プログラム

内 容	時 間	担 当
開場・受付・事前アンケート (事前アンケートは各自の机に置いておく)		GHスタッフ
①自己紹介 ②研修会の目的、流れの説明	10分	大坪、各務
VR動画視聴 1)私をどうするのですか？(視空間失認)+解説 2)レビー小体病 幻視編(レビー小体型認知症)+解説	35分	大坪、各務、 曾我、田々美
本日の体験を踏まえて意見交換 ◇ 新たな気づきはありましたか？ ◇ あなたが今日からできることはなんですか？ ◇ 認知症に対する今のイメージは？	15分	大坪、各務 曾我、田々美
閉会あいさつ	5分	大坪、各務

6. アンケート結果

参加者数 19名                      回収数 16                      回収率 84.2%

1) 性別

男性	3
女性	13
未回収	3

2) 年齢

平均                      45.5 歳

範囲                      25-58 歳

3) 職業

介護職	11
事務職	0
その他	4
未記入	1

(その他内訳) 看護師 2、MSW 1、未記入 1

平均就業年数 8.56年 (範囲: 2~14年)

4) 現在、認知症のある方が家族の中にいますか？

いる	1
いない	15

5) 認知症のある方と今まで接した経験はありますか？

はい	14
いいえ	2

6) 認知症サポーター養成研修に参加したことはありますか？

はい	6
いいえ	10

7) 体験前後の認知症に対する考えの変化  
だ

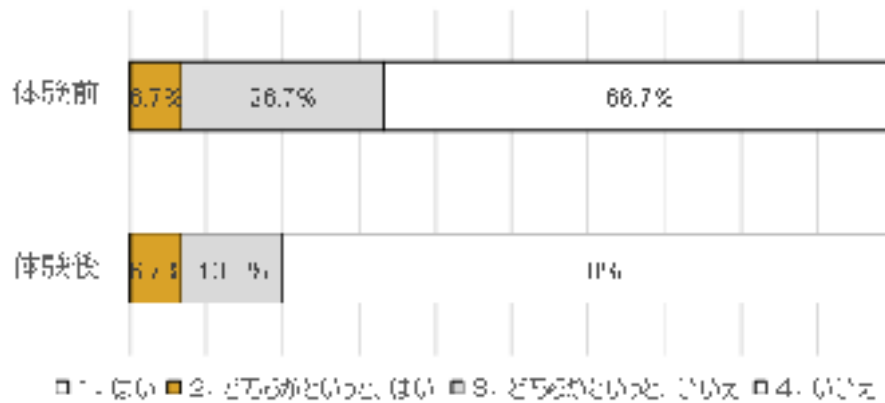
※   : 理解が後退   : 理解が進んだ

質 問	体験前				体験後			
	1. はい	2. どちらかという と、はい	3. どちらかという と、いいえ	4. いいえ	1. はい	2. どちらかという と、はい	3. どちらかという と、いいえ	4. いいえ
1. 認知症のある人が怖い	0 0.0%	1 6.7%	2 13.3%	12 80.0%	0 0.0%	2 13.3%	1 6.7%	12 80.0%
2. 認知症のある人にどう接していいかわからない	0 0.0%	5 33.3%	6 40.0%	4 26.7%	0 0.0%	3 20.0%	4 26.7%	8 53.3%
3. 認知症のある人が現実にはあり得ないようなことを話したら、根気強く訂正してあげる方がよい	0 0.0%	1 6.7%	3 20.0%	11 73.3%	1 6.7%	1 6.7%	1 6.7%	12 80.0%
4. 何度も同じことを繰り返し聞いてくる場合は、繰り返し聞いているということを目覚めさせてあげた方がよい	0 0.0%	1 6.7%	4 26.7%	10 66.7%	0 0.0%	1 6.7%	2 13.3%	12 80.0%
5. 間違いは一つ一つ直す方がよい	0 0.0%	1 6.7%	6 40.0%	8 53.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 20.0%	12 80.0%
6. プライバシー保護のために、近所お人には認知症であることを知らせない方がよい	3 20.0%	2 13.3%	4 26.7%	6 40.0%	3 20.0%	0 0.0%	4 26.7%	8 53.3%
7. 認知症は、感動したりうれしい時に感情を表現することができなくなってしまう病気だ	1 6.7%	2 13.3%	2 13.3%	10 66.7%	0 0.0%	2 13.3%	1 6.7%	12 80.0%
8. 認知症は、自分が何をしたいのか全くわからなくなってしまう病気だ	2 13.3%	4 26.7%	2 13.3%	7 46.7%	0 0.0%	4 26.7%	2 13.3%	9 60.0%
9. 認知症のある人が一人での外出を望んでも外出できないように施錠するしか方法がない	0 0.0%	2 13.3%	4 26.7%	9 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 20.0%	12 80.0%
10. 認知症になると何もできなくなってしまうので全てにおいて代わりにやってあげるのがよい	0 0.0%	2 13.3%	2 13.3%	11 73.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 20.0%	12 80.0%
11. 認知症の症状がひどい場合は、薬を増やすしかない	0 0.0%	3 20.0%	2 13.3%	10 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 13.3%	13 86.7%
12. 認知症のある人が暮らす環境や周囲との人間関係を改善すると認知症の症状が改善することがある	9 60.0%	4 26.7%	1 6.7%	1 6.7%	10 66.7%	4 26.7%	0 0.0%	1 6.7%
13. 認知症になってしまうと周りに迷惑がかかるので買い物には行かないように説得するしかない	0 0.0%	0 0.0%	5 33.3%	10 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	5 33.3%	10 66.7%
14. 家族が認知症になったら仕事を辞めて介護に専念するしかない	0 0.0%	2 13.3%	2 13.3%	11 73.3%	1 6.7%	0 0.0%	2 13.3%	12 80.0%
15. 認知症のある方が困っている	7 46.7%	7 46.7%	1 6.7%	0 0.0%	10 66.7%	4 26.7%	1 6.7%	0 0.0%



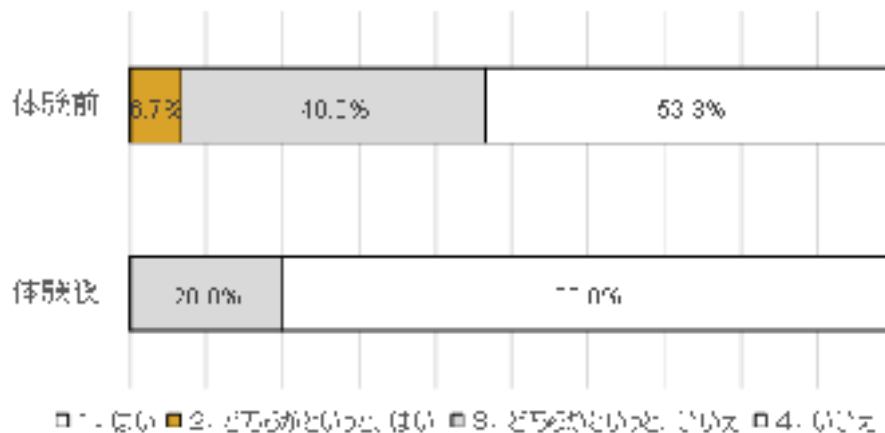
4. 何卒、同じことを繰り返して聞かせる場合は、繰り返し聞いていくことを自覚としてあげた方がよい

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



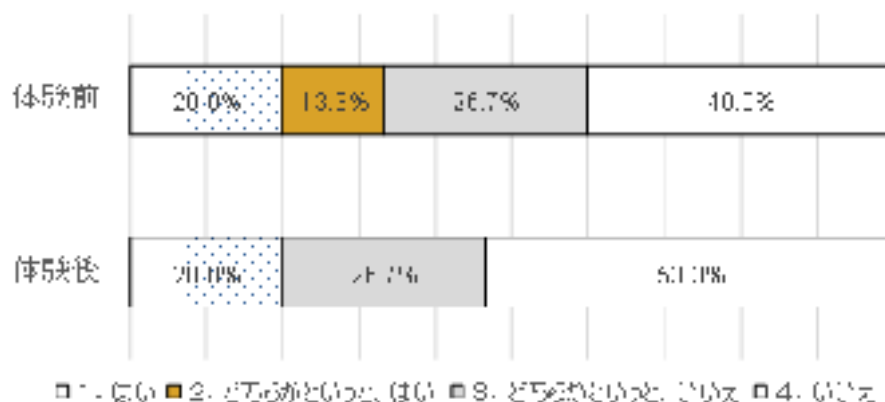
5. 間違いは一つ一つ直す方がよい

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



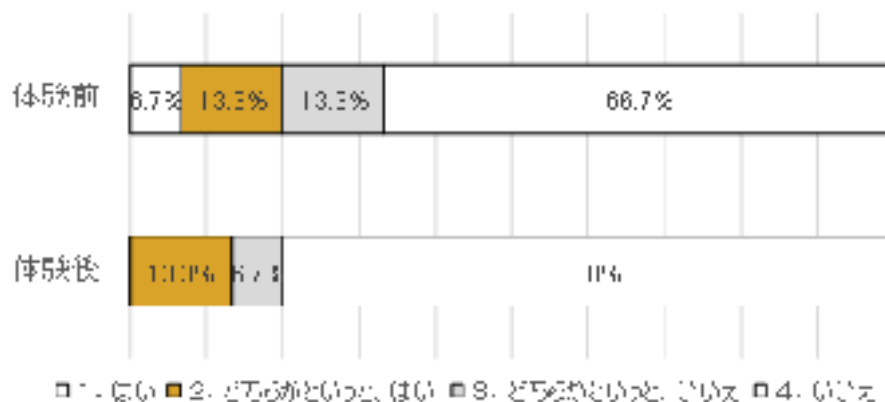
6. プライバシー保護のために、近所お人には認知症であることを知らせない方がよい

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



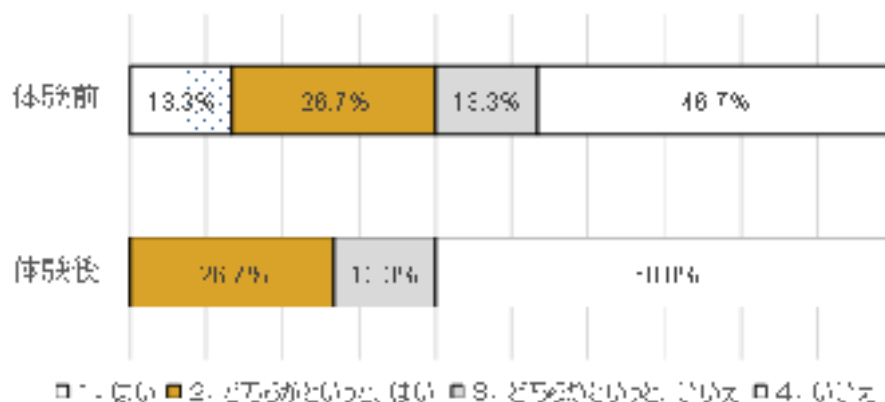
7. 認知症は、感動したりうれしい時に感情を表現することができなくなってしまう病気だ

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



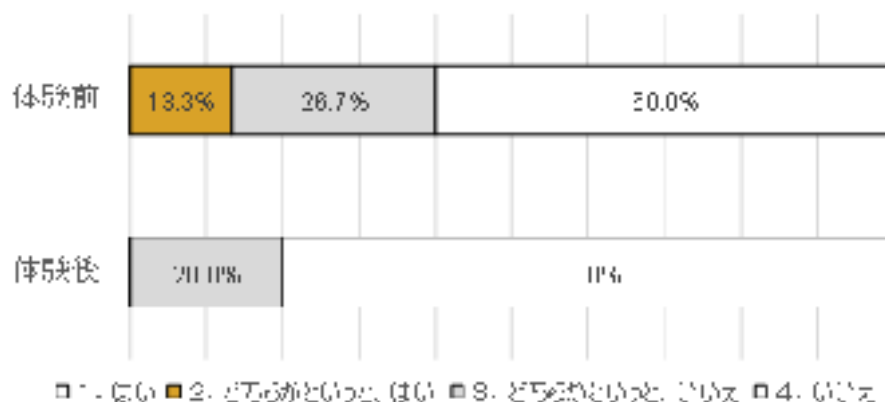
8. 認知症は、自分が何をしたいのか全くわからなくなってしまう病気だ

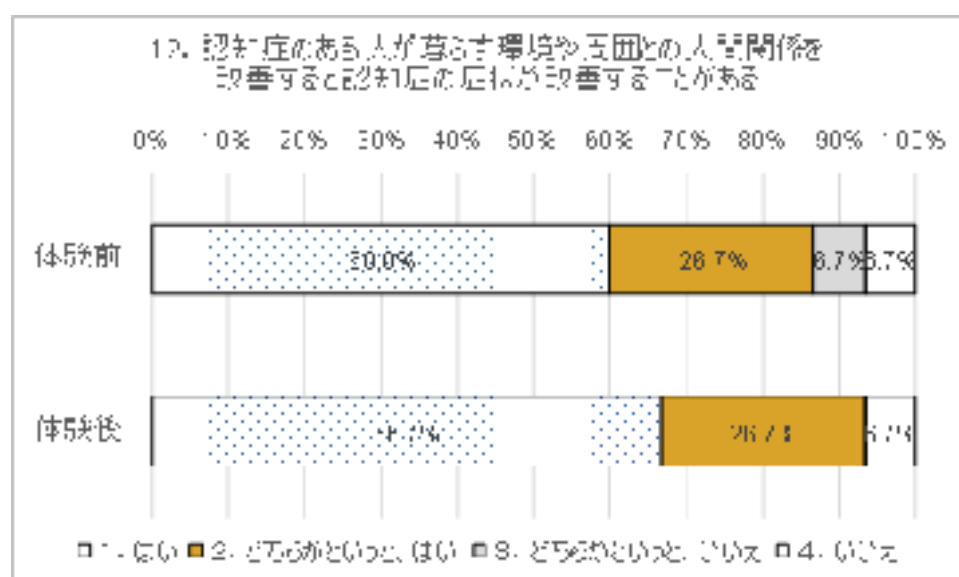
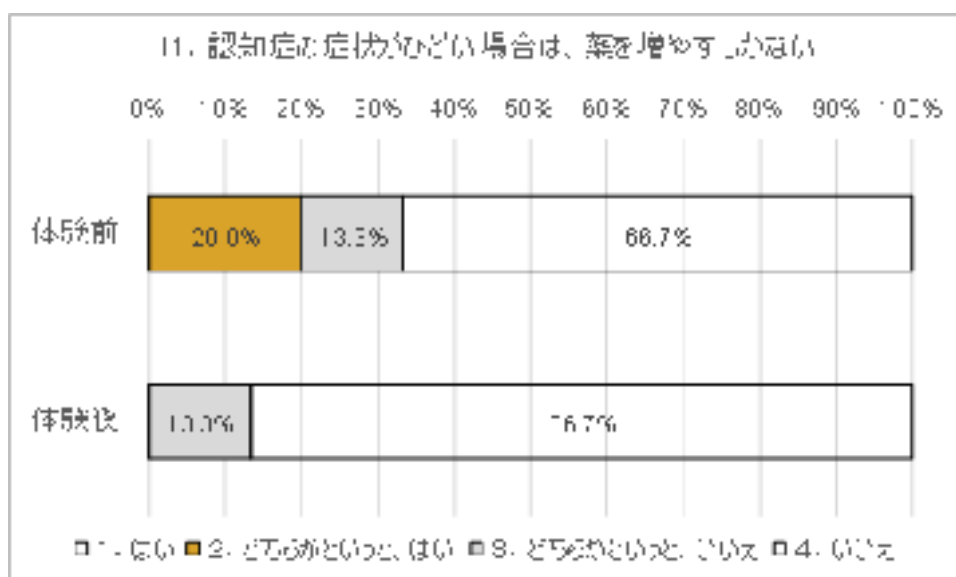
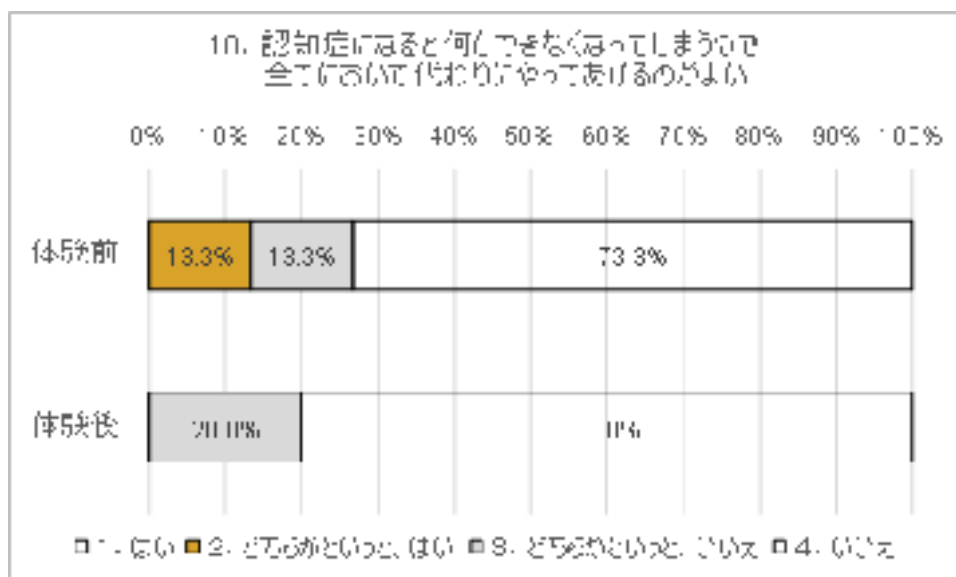
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

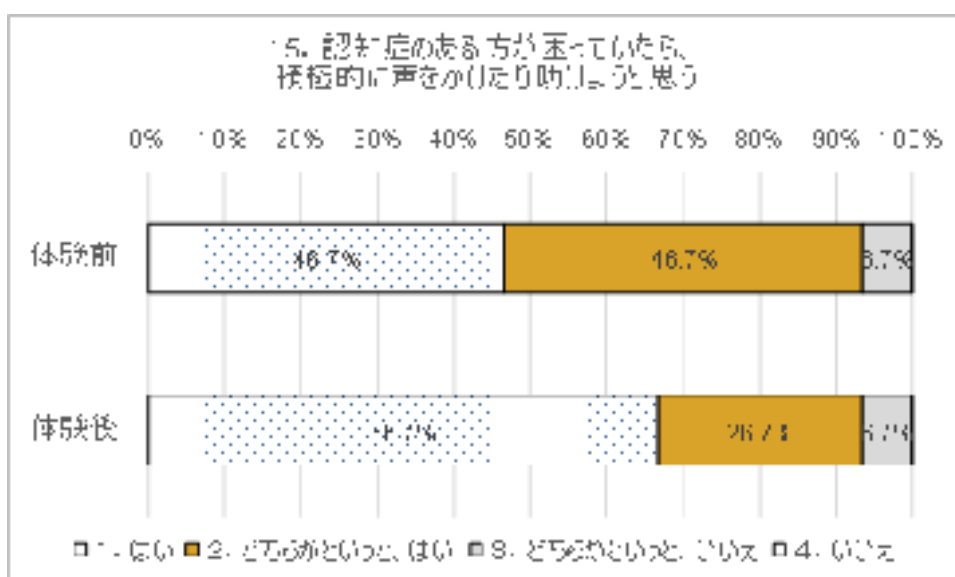
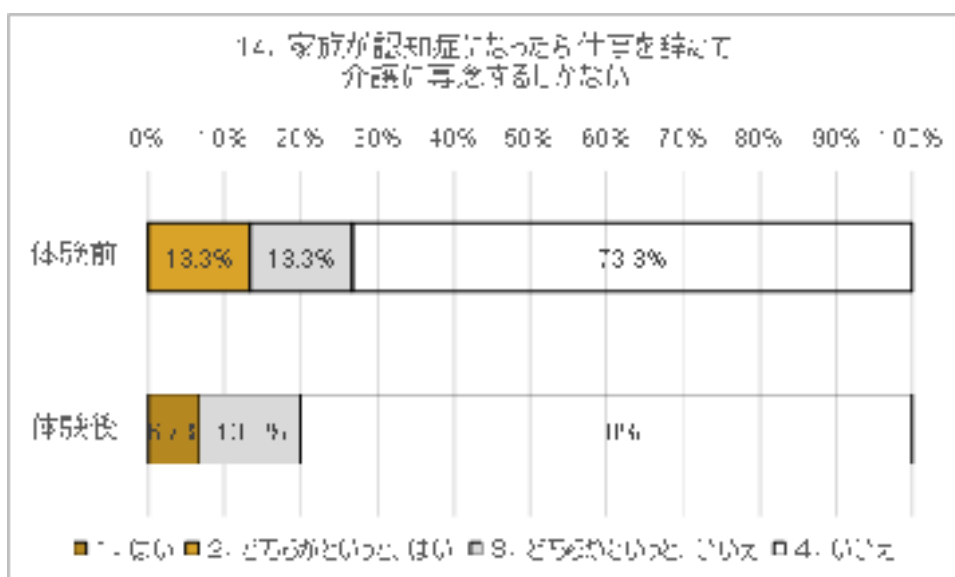
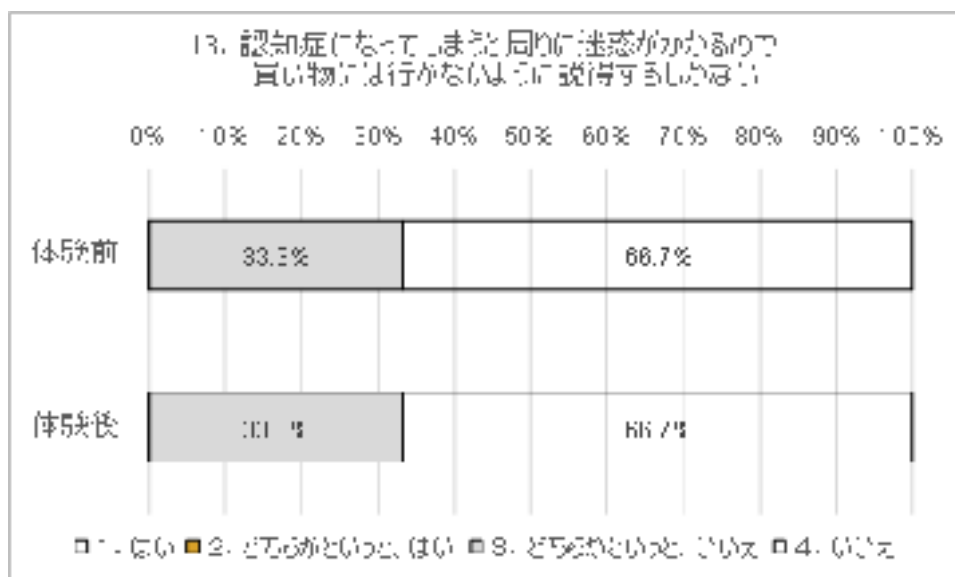


9. 認知症のある人が一人での外出を望んでも外出できるような環境にするしか方法がない

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



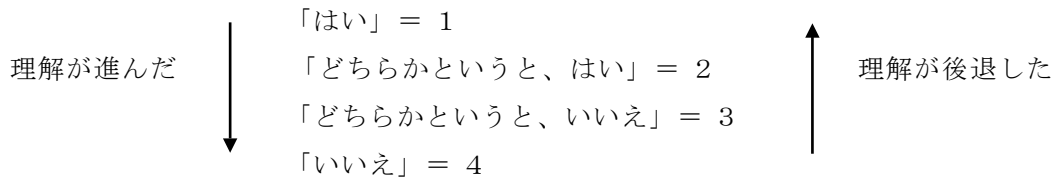






8 ) 体験前後の認知症に対する考えの変化 (増減幅)

【前提】 認知症に対する考えへの回答について、



体験後－体験前 = (+) なら、「理解が進んだ」と考えられる。

ただし、質問 1 2 , 1 5 は (-)

回答者 16 名の考え方の変化について、その増減幅を平均すると、

質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
平均	0.1	0.5	-0.1	0.1	0.3	0.1	0.3	0.4	0.4	0.2

質問	11	12	13	14	15
平均	0.4	-0.4	0.0	0.1	-0.1

- ◆ 体験を通して、認知症に対する考え方の変化が大きかった (理解が進んだ) のは、
    - 「2 . 認知症のある人にどう接していいかわからない」
    - 「8 . 認知症は、自分が何をしたいのか全くわからなくなってしまう病気だ」
    - 「9 . 認知症のある人が一人での外出を望んでも外出できないように施錠するしか方法がない」
    - 「11 . 認知症の症状がひどい場合は、薬を増やすしかない」
    - 「12 . 認知症のある人が暮らす環境や周囲との人間関係を改善すると認知症の症状が改善することがある」
- であった。

9) アンケート記述抜粋とワークより

「認知症」、「認知症の人」に対するイメージ

体験前	体験後
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少し怖い</li> <li>・ 認知症は最近よく耳にするんですが、まだ身近な方にはいなくて、イメージしにくいですが、ご本人がどのように感じたりするのか知りたいです。認知症の人は子どものようになるイメージがあります。</li> <li>・ 認知症はそれぞれ特質、症状が違い、攻撃的な方がいたり、穏やかだと思っても性格がすぐ感情的になったり、対応が難しいと思います。家族から疎外され、寂しい気持ちが伝わってきます。私が携わった患者様はそのような（寂しい）患者さんが多いです。</li> <li>・ もの忘れが多い。自身の行動の自覚の喪失。能力の低下。羞恥心の減少。意欲の低下。意思疎通が困難。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不安を抱えているのを知ることが大事</li> <li>・ 体験させてもらい、認知症の人のことが少しわかりました。症状も人によりいろいろあり、すべてが同じではないので、声かけの言葉なんかも一緒ではないかと思いました。体験させてもらいすごくよかったです。</li> <li>・ 実際に自分が認知になったら…と思うと、自分のペースで介助をしていたように思います。（ゴースルの映像で）錯覚に陥り気分が悪くなりました。</li> <li>・ 不安が常にある。状況がつかめない。はっきりしているのに伝わらない。</li> </ul>

体験を通じてどんな気持ちになりましたか？

1 話目（視空間失認）	2 話目（レビー小体型認知症・幻視）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ さみしい気持ちになりました。</li> <li>・ すごく不安な気持ちになりました。</li> <li>・ まっすぐに立っているのがしんどくてめまいを起こしそうになりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初めて聞く名前でした。</li> <li>・ 自分だと考えると、人にあうのが恐怖になってくると思います。</li> <li>・ 急に人が立っているのが、ちょっとびっくりしました。</li> <li>・ 何の話をしているか？集中できない。</li> </ul>

どうしてもらえるとうれしいですか？

1 話目（視空間失認）	2 話目（レビー小体型認知症・幻視）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ その人の気持ちになって先に行動を手助けする。</li> <li>・ 不安なところに声をかけられるとすごくうれしく思います。</li> <li>・ どうするか、細かく声かけしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1人1人の症状が違うから、その人に寄り添うようにする。</li> <li>・ 周りの人の声かけとかがすごく重要なんだと思いました。</li> <li>・ 自分の病気を知らない仲間たちなので、理解してほしいと思います。</li> </ul>

・ 説明、わかるように	・ 何の話か、情報量
-------------	------------

#### 新たな気づき

- ・ 認知症の方がVRを見たように見えて、ここはデイなのか？何をしているのか？不安
- ・ 患者様のことを思わずに今まで自分のペースで介助をしていたと改めて感じました。
- ・ その人により、不安になる原因がある。その人にとっての現実。否定しても意味がない。
- ・ 信じる
- ・ 実在しているように見えることにびっくりした。

#### 今日からできること

- ・ 声をかける
- ・ 声かけを丁寧に行う。
- ・ 説明の必要性。不安が軽減するよう声かけを最小限なりに詳しくする。距離感で安心につながる声かけ。
- ・ 聞く。本人の側に立つ。どうしたの？と聞き出す。本人の言葉や表情を見る。
- ・ その人の世界を認める

#### 認知症に対する今のイメージは変わったか

- ・ 1人1人を知ることが大事だなと思います。
- ・ 認知症の人でも、人によりいろいろなことがすべて違うので、ご本人、ご家族の方とも話をしたりしながら、対応していくことが大事だと思います。
- ・ 認知症は1人1人症状が違うので、思い込みで接しないようにします。
- ・ 困っている場面が想像より多い。